気候変動適応策研究会

The Society of Climate Change Adaptation

代表：半田あづみ
副代表：村上太一

研究会概要

本研究会では、気候変動対策の一つである「適応策」について政策学・法学・哲学といった様々な学問領域を横断している。温室効果ガス排出量の削減といった対処を緩和策、気候変動に起因する水災害等の被害を予防・低減するといった対処を適応策と呼ぶが、緩和策の研究は豊富である一方、適応策に関する研究は十分に行われているとは言い難い。そこで本研究会は、適応策の根本的な部分——その存在価値、歴史、射程——を問うことから研究を展開している。

研究会目的

目的は、「なぜ気候変動適応策に取り組まなければならないのか」という問題の根本を明らかにすることである。この研究成果を社会に還元するために、論文執筆および書籍化を目標とする。そのために、本年度は①気候変動適応策という概念自体があいまいであること、②理論的な擁護に関する研究が少ないこと、③施行されている法と理念の乖離が大きいこと、という３つの課題を設定し研究を行った。

運営方法

各人の関心に基づいて勉強会を開催し、議論を行って見識を深めるという運営方法を採用した。勉強会のテーマは、政策学・法学・哲学のいずれにとっても重要と思われるテーマを選択するよう心がけた。開催の形式は、図書館等での対面形式と、オンライン形式を併用した。それに加えて、複数名が同時的に情報を同じページに書き込めるクラウドサービス“Notion”を使用し、平時からの情報共有に務めた。

活動内容

春学期は各人を講師としたリレー講義を行い、研究会のテーマに含まれる「社会科学的側面」として扱いうる学問分野がなにか、また各人が明らかにすることが得意な問いがなにかを抽出した。秋学期は書籍執筆にかかわる問いに共同で勉強会の形式で取り組んだ。具体的には、「気候変動適応策とはなにか一各人の専門から解釈してみる一」と「気候変動適応策におけるステークホルダーないし取組み主体はだれか・なにか」について、一回90分で口頭発表・質疑応答・議論を行った。

成果・展望

初年度は、目標である論文執筆および書籍化に向けた有意義な準備期間となった。主に、専門分野の異なる研究会メンバー間の関係構築と研究会としての研究能力の向上に注力した。次年度も本研究会を継続し、書籍完成に向け励む。

研究会会員： 半田あづみ、村上太一、川島嵩史
冠野つぐみ、北和樹

YEAR: 2024